

奨励賞

石山亜紀子

＜世間と自分の「枠」を越える－夫婦別姓を目指した母のもとで－＞

＜要旨＞

本レポートは、夫婦別姓を目指した母の行動によって、幼い頃に両親が離婚したという筆者の特異な原体験から、筆者がその痛みを越えて、長い間恨みすらした母を理解し、自らも選択的夫婦別姓法制化を含む男女平等を実現しようと思い至るまでの自己対峙のプロセスをふり返ったものである。

筆者が世間や自分の「枠」から解放されることで生きづらさがなくなり、視野が広がっていく一方、夫婦別姓反対派女性の研究、またさまざまな困難を抱える女性の相談や暴力防止啓発事業を通じた多様な「女性」とのかかわりによって、実は筆者自身が「女性」を分断していたことに気づくなど、そこには常に学びの連続によるエンパワメントの過程があった。こうして、筆者が自分と他の「女性」の声に耳を傾け、その思いの背景を想像する力の大切さを実感したことで、筆者なりの男女共同参画社会実現への新たな糸口を見出している。